

東証プライム上場企業向け実装ガイド

SSBJ 2027年4月適用

実装ガイド

7軸の実務チェックリストと、
業界別ベンチマーク・想定工数試算。

ISSUED BY
ソーシャス株式会社

AUDIENCE
CSO・CFO・IR・サステナビ
リティ責任者

PUBLISHED
2026年5月

● 21 PP

01 FOREWORD — はじめに

2026 年内が、 実質的なリミットです。

東証プライム市場の上場企業約 1,600 社は、2027 年 4 月期からサステナビリティ基準委員会（SSBJ）開示基準の段階的適用が予定されています。

ガバナンス体制、戦略・リスク管理、シナリオ分析、Scope 1/2/3 排出量、データ収集基盤、第三者保証への対応——これらすべてを 1 年で実装するためには、**2026 年内の現状把握と計画立案が実質的なリミット**となります。

しかし、これらの全体像を、サステナビリティ責任者が短時間で把握できる実質的なリソースは、現時点では限られています。本ガイドは、その全体像を 1 冊で把握できる実質的な参考資料として設計されました。

本ガイドの構成は 3 部です。第 1 部で SSBJ 適用基準の全体像を整理し、第 2 部で 7 軸の実務チェックリストを提示します。第 3 部では実装ロードマップと業界別ベンチマークを示します。各章には、AI を活用した効率化のアプローチを併記しています。

本ガイドが、貴社の SSBJ 対応における最初の一步を踏み出すための実質的な参考資料となれば幸いです。

尹 世羅

ソーシャス株式会社 代表取締役

02 CONTENTS — 目次

本ガイドの構成

I 第1部 — SSBJ 適用基準の全体像

1-1	SSBJ 適用基準の構造	05
1-2	ISSB (IFRS S1/S2) との整合性と差分	06
1-3	段階適用スケジュール	07

II 第2部 — 7軸の実務チェックリスト

2-1	ガバナンス体制	09
2-2	戦略・リスク管理	10
2-3	指標と目標 (Scope 1/2/3)	11
2-4	データ基盤	12
2-5	内部統制	13
2-6	連結範囲	14
2-7	第三者保証対応	15

III 第3部 — 実装ロードマップ

3-1	6か月実装ロードマップ	17
3-2	業界別ベンチマーク	18
3-3	想定工数試算	19
3-4	よくある落とし穴と回避策	20

— PART · I

SSBJ 適用基準の 全体像。

適用基準書・一般基準書・気候基準書の3つから成る開示制度の構造、ISSBとの整合性、段階適用スケジュールを整理します。

3 CHAPTERS · §1.1 — §1.3

pp. 05 — 07

SSBJ 適用基準の構造

SSBJ（サステナビリティ基準委員会）が公表したサステナビリティ開示基準は、3つの文書から構成されます。

- **適用基準書** — 全体の適用範囲、移行措置、初期適用ルールを定める
- **一般基準書** — サステナビリティ関連リスク・機会に関する財務情報の全般的な要求事項（ISSB IFRS S1 に相当）
- **気候基準書** — 気候関連リスク・機会に関する開示要求事項（ISSB IFRS S2 に相当）

これら3つの基準書は、ISSB（国際サステナビリティ基準審議会）の IFRS S1 および IFRS S2 と高い整合性を持つよう設計されています。グローバル展開する日本企業にとっては、ISSB との同時対応を視野に入れた開示プロセス構築が、業務効率化の鍵となります。

本ガイドの前提。本ガイドでは、適用基準書・一般基準書・気候基準書の3つを総称して「SSBJ 開示基準」と呼びます。詳細な条文の解説は、SSBJ 公式の基準書文書をご参照ください。

ISSB (IFRS S1/S2) との 整合性と差分

SSBJ 適用基準は ISSB との整合性を持つよう設計されていますが、日本独自の事情を反映した差分も存在します。

— 整合する主要要素

- ガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標の 4 要素フレームワーク (TCFD 由来)
- 気候関連シナリオ分析の定量実施要求
- Scope 1/2/3 排出量の連結ベース開示
- サステナビリティ関連の財務影響評価 (短期・中期・長期)

— 日本独自の差分 (主要なもの)

- 連結グループの範囲定義 (日本会計基準ベース)
- 業種別の段階適用優先度
- 第三者保証の段階的義務化スケジュール
- 日本語による開示書類の様式・記載順序

これらの差分は、グローバル展開する企業がグループ全体で ISSB を共通基盤として採用しつつ、日本子会社の開示書類は SSBJ 適用基準に準拠する、というハイブリッドな対応を必要とします。

段階適用スケジュール

SSBJ 適用基準の段階適用スケジュールは、東証プライム市場の時価総額規模に応じて以下のよう
に予定されています（2026年5月時点）。

適用開始期	対象企業	主な要件
2027年4月期	東証プライム市場 — 時価総額上位 (試算約100社)	一般基準書・気候基準書の 早期適用
2028年4月期	東証プライム市場 — 時価総額中位	一般基準書・気候基準書の 本格適用
2029年4月期	東証プライム市場 — 全社	全社適用完了

第三者保証（**assurance**）の義務化スケジュールは、開示適用と並行して段階的に進む予定で
す。限定的保証から始まり、合理的保証への移行が想定されています。

※ 適用スケジュールは金融庁・SSBJ 公式発表の最新情報をご確認ください。本ガイドは2026年5月時点の情報に基づきます。

— PART · II

7 軸の実務 チェックリスト。

ガバナンス、戦略・リスク管理、指標と目標、データ基盤、内部統制、
連結範囲、第三者保証——各軸の必須項目を 5 ～ 6 行で点検し
ます。

7 AXES · §2.1 — §2.7

pp. 09 – 15

ガバナンス体制

取締役会レベルでサステナビリティ関連リスク・機会のオーバーサイトを実装する。**SSBJ 適用の最も基本的な要件。**

— CHECKLIST ・ 5 項目

- | | |
|---|--------------------------|
| 取締役会の年 4 回以上の定例議題にサステナビリティ・トピックを組み込んでいる | <input type="checkbox"/> |
| サステナビリティ委員会またはリスク委員会を設置している | <input type="checkbox"/> |
| サステナビリティ責任者（CSO 相当）が取締役に直接報告するライン | <input type="checkbox"/> |
| サステナビリティ関連リスクが ERM（全社リスク管理）に統合されている | <input type="checkbox"/> |
| 取締役のサステナビリティ関連スキル・経験が整理され、開示されている | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

取締役会向けの定期ダッシュボードを AI 自動生成することで、サステナビリティ KPI の継続モニタリングを実現。**Socious Report** は、ガバナンス報告用の月次ダッシュボードを自動生成します。

戦略・リスク管理

気候関連シナリオ分析（1.5°C / 2°C / 3°C）を定量で実施し、財務影響評価まで結びつける。**最も技術的に難易度の高い領域。**

— CHECKLIST ・ 5 項目

- | | |
|---|--------------------------|
| 1.5°C / 2°C / 3°C の 3 シナリオでの財務影響を評価している | <input type="checkbox"/> |
| 移行リスク（規制・市場・技術・評判）と物理リスク（急性・慢性）を区別している | <input type="checkbox"/> |
| 機会領域（製品・サービス・市場・回復力）も同様にシナリオ分析している | <input type="checkbox"/> |
| シナリオの前提条件（炭素価格、市場移行速度等）が明文化されている | <input type="checkbox"/> |
| 分析結果が経営計画・投資判断に反映される仕組みがある | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

業界別ベンチマークとマクロシナリオデータを統合した AI で、初期シナリオ分析を数日で生成。社内検討の起点として活用することで、**外部コンサルティング費用を大幅に削減**できます。

指標と目標

(Scope 1 / 2 / 3)

GHG プロトコル準拠の排出量算定。**Scope 3**の**15 カテゴリ網羅**が大企業の最大の実装ハードル。

— CHECKLIST · 6 項目

- | | |
|---|--------------------------|
| Scope 1 (直接排出) を連結ベースで算定している | <input type="checkbox"/> |
| Scope 2 (電力等の間接排出) をマーケットベース・ロケーションベース両方で算定 | <input type="checkbox"/> |
| Scope 3 を 15 カテゴリすべてで関連性評価している | <input type="checkbox"/> |
| Tier-1 サプライヤーから一次データを取得する仕組みがある | <input type="checkbox"/> |
| Tier-2/3 サプライヤーには業界平均推計を併用する設計 | <input type="checkbox"/> |
| SBT (Science Based Targets) 等の中長期目標を設定・開示している | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

Scope 3 算定で最も時間がかかるのは、サプライヤーごとの活動量データ収集と推計。**Socius Report** は、業種コード・取引金額から業界平均原単位を自動付与し、一次データ取得状況を段階的に高めるロードマップを支援します。

データ基盤

年 1 回の集中作業ではなく、年間を通じた継続データ収集ワークフローの確立が SSBJ 適用の前提となる。

— CHECKLIST ・ 5 項目

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------|
| サステナビリティ関連 KPI を月次・四半期で収集する仕組みがある | <input type="checkbox"/> |
| 国内・海外の連結子会社からのデータ収集ルートが標準化されている | <input type="checkbox"/> |
| データ収集テンプレートが基準（SSBJ・ISSB・CSRD）と整合している | <input type="checkbox"/> |
| 収集データの品質チェック・整合性確認が自動化されている | <input type="checkbox"/> |
| 過去年度との比較分析が可能な形でデータが蓄積されている | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

四半期ごとのサプライヤー依頼、データ品質チェック、欠損データの推計補完を AI で自動化。社内のサステナビリティ部門が「データ取得」ではなく「分析と改善」に時間を使える環境を構築できます。

内部統制

サステナビリティ情報を保証業務（**assurance**）に耐える品質で運用するための内部統制設計。

— CHECKLIST · 5 項目

- | | |
|--|--------------------------|
| データ入力者・レビュー者・承認者の役割分離が明確 | <input type="checkbox"/> |
| すべての入力データに「誰が、いつ、どのソースから入れたか」のログが残る | <input type="checkbox"/> |
| 計算式・係数・推計方法が文書化され、変更履歴が追跡できる | <input type="checkbox"/> |
| 判断記録（マテリアリティ評価、Scope 3 関連性評価等）が保管されている | <input type="checkbox"/> |
| SOX 法対応・J-SOX 対応と整合した統制設計 | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

データの来歴・計算根拠・判断記録を自動保管する「**audit-ready**」設計。監査人ポータルで監査法人が必要な情報に直接アクセスできることで、保証対応の工数を初年度から大幅削減できます。

連結範囲

海外子会社・関連会社・ジョイントベンチャーまで**連結ベースでの開示が原則**。
データ統合の難易度が高い領域。

— CHECKLIST ・ 5 項目

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 連結グループ全体の構造（出資比率・支配関係）が整理されている | <input type="checkbox"/> |
| 各海外子会社の現地報告基準と SSBJ の差分が把握されている | <input type="checkbox"/> |
| 多言語（英語、中国語等）でのデータ収集ワークフローが機能している | <input type="checkbox"/> |
| 現地通貨建てデータを本社共通単位に自動換算する仕組み | <input type="checkbox"/> |
| JV（ジョイントベンチャー）の取り扱い基準が定まっている | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

多言語入力フォーム、現地通貨自動換算、複数基準への自動マッピングを統合したプラットフォームで、**本社主導のグループ統合**を効率的に実現できます。

第三者保証対応

SSBJ 適用と並行して第三者保証の段階的義務化が進む。**限定的保証** → **合理的保証**への移行に備える。

— CHECKLIST · 5 項目

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 監査法人とのサステナビリティ情報保証契約を準備している | <input type="checkbox"/> |
| 監査人からの問い合わせに対するデータ来歴・計算根拠の提示体制 | <input type="checkbox"/> |
| 判断記録・内部統制ログを監査人が確認できる仕組み | <input type="checkbox"/> |
| 初年度は限定的保証、数年内に合理的保証への移行計画 | <input type="checkbox"/> |
| 監査人ポータル等で保証業務を効率化する手段を検討 | <input type="checkbox"/> |

— AI による効率化

監査人とのやり取り工数を **30～50% 削減**できる「audit-ready」プラットフォーム。データの来歴、計算根拠、判断記録が自動保管され、監査人が必要な情報に直接アクセスできる設計です。

— PART · III

実装 ロードマップ。

6 か月の標準工程、業界別の優先実装領域、想定工数試算、よくある落とし穴と回避策を提示します。

4 CHAPTERS · §3.1 — §3.4

pp. 17 – 20

6か月実装ロードマップ

2027年4月期SSBJ適用に向けて、2026年5月から開始する場合の標準ロードマップです。

時期	主な実装事項
2026・05	現状診断（Readiness Check）、ギャップ分析、実装計画策定
2026・06-07	ガバナンス体制構築、サステナビリティ委員会設置、データ収集テンプレート確立
2026・08-09	Scope 1/2 算定基盤構築、サプライヤー Scope 3 データ収集開始
2026・10-11	気候シナリオ分析実施、マテリアリティ評価、内部統制設計
2026・12 — 2027・01	初期開示ドラフト作成、社内レビュー、監査法人との対話開始
2027・02-03	第三者保証準備、最終調整、開示書類確定
2027・04	SSBJ 初年度開示・第三者保証取得

業界別ベンチマーク

業界ごとに優先実装領域が異なります。本章では主要 4 業種について、優先対応領域を整理します。

01 製造業

最優先 — SCOPE 3

特に Category 1（購入製品・サービス）、Category 11（販売製品の使用）。製品ライフサイクル全体での排出量算定が要件。サプライヤー一次データ取得が最大のハードル。

02 金融業

最優先 — CATEGORY 15

融資・投資ポートフォリオの排出量算定（PCAF 等の業界標準に準拠）。気候関連リスクの財務影響評価が他業種より深く求められる。

03 商社・卸売

最優先 — SCOPE 3 全カテゴリ

取扱い商品の幅が広いため、活動量データの収集設計が複雑。サプライヤー数千社レベルでの段階的データ取得が現実的。

04 IT・通信

最優先 — SCOPE 2 / CAT. 11

電力消費が大きい Scope 2 と、クラウドサービスの使用排出（Cat. 11）。データセンターのエネルギー消費・水使用の開示が新興領域。

想定工数試算

典型的な大企業（連結売上 1,000 億円以上、海外子会社あり）の年間業務工数試算です。

領域	従来（手作業中心）	AI 活用後
データ収集	1,500 ～ 3,000 時間	500 ～ 1,000 時間
開示書類作成	800 ～ 2,000 時間	200 ～ 500 時間
シナリオ分析	500 ～ 1,500 時間	200 ～ 500 時間
第三者保証対応	500 ～ 1,500 時間	150 ～ 500 時間
合計	3,300 ～ 8,000 時間	1,050 ～ 2,500 時間

年間 **2,000 ～ 5,500 時間相当**の業務時間削減効果。時間単価 7,500 円で換算すると、年間 **1,500 ～ 4,100 万円相当**の効率化となります。

よくある落とし穴と回避策

01 年 1 回の集中作業に固執

年次決算後の 3～4 か月で開示書類を作る従来モデルでは、SSBJ が求める品質に到達できません。継続データ収集ワークフローの早期構築が不可欠です。

02 欧州テンプレートの直接使用

CSRD・ESRS の英文テンプレートをそのまま日本語訳しても、日本の雇用制度・サプライチェーン構造に合いません。日本特化のテンプレート設計が必要です。

03 監査対応を開示直前まで先送り

第三者保証は開示書類が完成してから始まる業務ではなく、データ収集の最初の段階から「監査人に説明できる形」で進める必要があります。

04 Scope 3 で「完璧」を求める

初年度から全カテゴリーの一次データを揃えることは不可能。推計を積極活用し、年度ごとに精度を上げる段階的アプローチが現実的です。

05 社内体制の縦割り

サステナビリティ・経理・IR・法務・各事業部門の連携不足が最大のボトルネック。早期に横串体制を設計することが重要です。

— SSBJ 対応をはじめませんか

3 基準を、 1 つの開示プロセスで。

『Socious Report』は、AI を活用したサステナビリティ報告プラットフォームです。CSRD（欧州）、SSBJ（日本）、ISSB（国際）の 3 つの主要な開示基準に、1 つの開示プロセスで対応します。

01

3 基準を 1 つの開示プロセスで

CSRD・SSBJ・ISSB の共通データポイントを自動マッピング。1 度入力したデータが 3 基準に自動反映。

02

ダブル・マテリアリティ自動化

業界別ベンチマーク・財務影響シミュレーションを統合した AI で評価。2～3 か月の作業を数日に短縮。

03

Scope 3 段階的支援

サプライヤー一次データと業界平均推計を組み合わせ、初年度から開示可能な精度を実現。

04

第三者保証対応

監査トレイル自動保管、監査人ポータル。保証対応工数を 30～50% 削減。

— 無償 AI 診断ツール

SSBJ Readiness Check

socious.io/ja/ssbj-check

— DEMO & INQUIRY

製品の詳細・デモのご相談

socious.io/ja/contact**ソーシャス株式会社**

東京都中央区日本橋 3 丁目 2 番 14 号 1 階

socious.io